

R4 授業改善プラン（国語）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナの読み書きが定着していない。音読することが難しい児童もいる。 ・相手の話を集中して聞くことが難しい児童がいる。 ・ペア学習での相談や、意見交換が成立しない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらがな・カタカナの定着をさせるため、ステップタイム等を活用して繰り返し練習に取り組みさせる。また、授業では、読みを正しく音読ができるよう指導をする。 ○話を聞く時には、話し手の方を向くことや、最後まで聞くことを先ずは意識させる。 ○ペア学習時は、関わり合う目的を示したり、その方法(話型など)を示したりして、多くの児童が相談や意見交換ができるように指導する。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字やカタカナなどを適切に用いて、文章を書くことが苦手な児童がいる。 ・相手の話を集中して聞くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書本文や板書で用いた漢字やカタカナを同じようにノートに書くことを意識付ける。また、音読の練習や言葉集めの学習などを通して、漢字やカタカナで書くべき言葉が分かるように語彙を増やす。 ○友達の話に相槌をうったり、話型を用いて反応したりするように指導し、友達の考えを受け止めながら聞いて、学習の理解が深まるように支援する。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字小テストで満点をとれても、期末のテストになると漢字を書けない児童が多い。 ・自分の考えを一人では表現できない児童や、自分の考えを書けても、その理由までは書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に合った漢字の練習方法を見付けられるよう、一人一人サポートしていく。 ○書く活動の前には、簡単な文例を出すようにして、見通しをもてるようにする。また、自分の考えに自信をもてるよう、考えを書く前に友達と意見交流をする時間を意図的に設ける。
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙の習得が苦手な児童が多い。また、学習した漢字を、文の中で用いることが苦手な児童が多い。 ・文の書き方や構成を意識することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習中は常に辞書を手元に置かせ、分からない漢字や言葉の意味などは、辞書を引いて調べことを習慣化させる。 ○明確なテーマと文章の基本文型を提示し、「何を」「どのように」書くのかを意識させながら書かせる指導を繰り返し行う。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習得が定着していない児童が多い。 ・叙述に沿った読み取りが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の授業に限らず、他教科の授業でも既習の漢字を意図的・計画的に書く機会を増やす。定期的に漢字小テストを実施し、習熟を図る。 ○登場人物の心情が分かるところにサイドラインを引かせるなど、叙述を基に考えることを常に意識させる。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を用いて、文を書く習慣が身に付いておらず、漢字の定着が不十分な児童が多い。 ・自分の考えを文章として表現することに対して、苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の漢字を使うように声をかけ、書けていない場合には、その都度確実に直させるように指導する。また、新出漢字を学習する際は、熟語やそれを使った短文作りに意図的に取り組みせ、定着できるようにしていく。 ○小グループで話し合っ考える機会を増やす。その際、タブレット端末を積極的に活用し、効率良く自分の考えを表出しやすくする。また、児童が文章を書く活動では、内容によっては、アナログ（ノートやプリント）かデジタル（アプリケーション）を選択できるようにする。